

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1987. 11

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA


WILD BIRD



NO. 42

日本野鳥の会 埼玉県支部

フィールドノートつけて… みるか…

 フィールドノートの楽しみ 横山 みどり (東京都)

鳥たちに出会う度に、何らかの印象を受ける。それは、驚きであったり、喜びであったり、時には失望であるかもしれず、あるいは、もっと静かな、「やあ、相変わらず元気でやってるな」といった程度のもものかもしれない。これらの印象は、私たちの脳のどこかに、記憶として刻まれますするのだろうが、時とともに薄れゆき、遂には忘れ去ってしまう。こう考えると、何だかもったいない気がする。鳥好きな人なら誰でも、彼等との出会いを何とか形にとどめたいと一度は思うことだろう。その方法として、写真、声の録音など、色々あるが、最も簡単で、しかも確実な方法は、言葉や文章による記録ではないだろうか。私にとってフィールドノートとは、鳥たちとの出会いとそれにまつわる様々な経験をいつまでも残しておくための保管庫である。同時に、大きな楽しみをも提供してくれるのである。

私は、フィールドノートとして大小2種類のノートを使っている。小型の方は、現場用である。探鳥には必ず持って行き、鳥の名前や気づいた事柄をその場でメモする。名前が判らない時は全体の形をスケッチし、特徴などを書き込んでおく。一方、大きいノートは“永久保存版”で、帰宅後、現場でのメモをこのノートに清書する。鳥の名前は「日本産鳥類目録」の順に並べ、どこに何羽いたか、何をしていたか等々を書き添える。識別でき



チェックリストもフィールドノート

なかった鳥は、メモやスケッチをもとに、手持ちの図鑑を総動員して調べる。結局、わからないままのことが多いが、その場合も疑問点として記録を残しておく。最後に、その日の感想を書く。気がむくとノート2ページ位にわたって、ぎっしり書くこともある。また探鳥地までの交通情報（電車やバスの所要時間や費用など）、現地のトイレや売店の状況、アフターバードウォッチングに関する情報などについても、書いておく。つまり、私のフィールドノートは、出会った鳥の客観的な記録のみならず、一種の日記であり、手作りのガイドブックでもあるわけだ。このフィールドノートの作成そのものが、私にとっては捨て難い楽しみである。経験を言葉に変換し、さらに文章に作りあげる過程で、鳥たちの姿が鮮やかに蘇り、その出会いをもう一度楽しめる。また、その姿と図鑑を較べることにより、自分なりの識別のポイントが掴めることもある。そして、このノート整理をひととおり終えると、一種の満足感を覚える。その日の探鳥での経験を、自分の財産の一部に確実に加えることができたという満足感である。

ところで、私の“鳥歴”は12年半になり、フィールドノートも随分たまってきた。雨の日などは時折、これらのノートを眺めて過ごす。これが言わば、フィールドノートの第二の楽しみである。ページを繰るうちに、懐しくなり、つい夢中になってしまう。そして、この数年間の様々な変化に、改めて驚く。減った鳥、増えた鳥。昔は冬鳥だったハクセキレイ。いつのまにか、秋ヶ瀬から姿を消してしまったアカゲラ、ヤマガラ。探鳥地も変わった。たくさんのシギを見せてくれた浦安の埋立地は、今は巨大な遊園地の底。昔は見向きもしなかったのに、最近気になる存在の渡良瀬遊水池。多少の変化はあるにせよ、毎年

何かと話題を提供している秋ヶ瀬から大久保の農耕地。そして、人間—私の鳥仲間の変化、十年一日のごとく、鳥！鳥！と騒いでいる私自身も、微妙に変化しているように思う。あれこれと思いをめぐらせていると、時がたつのを忘れる。これこそは、鳥たちと長くつき



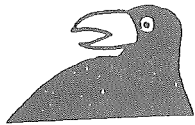
あなた自身のフィールドノートをつけよう！

小荷田 行男（浦和市）

あなたの身のまわりで、あなたが定期的に自然観察を行なっているフィールドで、自然観察会や探鳥会で、旅先で自然観察の記録を「現地にて」、「観察しながら」書いてゆく媒体がフィールドノートです。

自然観察の入門書にはフィールドノートの記述内容として「永久的にしかも第三者にも理解できるように記録しておかなければなりません。そのためには、いつ、どこで、だれが、なにを、なぜ、どのように、どうしたという5W1Hの原則を忘れずに、あわせて結果の考察も書きしるしておくことが必要です。」（工藤1982）とアドバイスされています。

私は自然観察をはじめて約20年になります。このような優等生的アドバイスは一切不要と考えます。フィールドノートは日常使っている手帳と同じです。備忘、記録、時間や金銭などのリソース管理など、手帳をつける目的は人によって様々です。フィールドノートも同様です。



フィールドノートの目的は調査、研究レポート作成のデータ収集、写真撮影の記録、詩歌や小説執筆のための取材記録、ルポルタージュ執筆の取材記録など、原稿や写真などの発表ドキュメント作成の基礎データとして使用する本格的な場合があります。また、特に目的を定めず注意をひいた事のみを記録する気楽な場合もあります。あなた自身のフィールドノートをつける目的を決めて下さい。

フィールドノートは特にノートにつけるとは限りません。現地の地形図に書いてもかまいません。イラストマップに書いてもかま

あい、その記録を残してきた人々のみが味わえるぜいたくな楽しみであろう。いや、12年位で長いつきあいとは、おこがましい。鳥歴30年、40年の大ベテランがたくさんいるではないか。私の今の楽しみなどは、まだまだささやかなもの、本当のお楽しみはこれからだ。

ません。京大式カードなどの整理用カードにかいてもかまいません。書きつける対象は紙に限らずフィルム、録音テープ、フロッピー・ディスクなど記録媒体であれば特に限定されません。あなた自身が自由に使いこなせる媒体を駆使して下さい。

フィールドノートは観察した事柄を現地にてその都度書くものです。雨が降っている時もあります。風が吹いている時もあります。



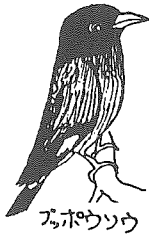
あなた自身の方法で記号や省略文字、絵や図形などを使って手早く記録して下さい。

客観的な事実を書く事はもちろん大切ですが、第一印象の様な主観的な事も書いて下さい。後で主観的な印象を客観化する作業の中で新しい発見があります。

現地で書いたフィールドノートは記録として役立つようにある程度の整理が必要です。現地で書いた部分にコメントを書き加える方法、全く別の記録媒体に転記する方法などがあります。目的に沿って実践的にまとめる、イラストや図、表を入れ他人を意識した仕上げにする（自己陶酔の世界？）など、あなた自身のフィールドノートを書く目的に従って、現地での印象が薄れないうちに整理して下さい。整理している中で書き方の改良点なども見えてくるでしょう。

フィールドノートは原則的に他人に見せるものではありません。あなた自身の目的で、あなた自身の方法で書き整理して下さい。フィールドノートはあくまでも、あなたの目を見たあなた自身のための自然観察の記録です。





埼玉平野部におけるコゲラの進出

— 1987年夏鳥分布調査 —

埼玉県支部 研究部

1987年夏の県内野鳥分布調査は会員諸氏の御協力により表1の様に実施されました。ここに本調査の結果を報告致します。

本調査により地域別(表2)の種別生息状況(表3)が得られました。

1980年以降、コゲラ、アオゲラが従来の生息域である山地、丘陵の森林から平野部へ進出しています。(川内1985)。県内においても特にコゲラは夏の新たな生息が越谷をはじめ従来見られなかった平野部各地で確認されるようになりました。1985年から1987年の夏

鳥調査からキツツキ3種の出現率(キツツキ出現メッシュ数/調査メッシュ数)の変化(表4)を見ると、コゲラはいずれの地域においても確実に増加していますがアオゲラ、アカゲラははっきりとした傾向は見い出せない結果となりました。

<文献>

川内博 1985 東京におけるコゲラ・アオゲラの平地部進出について 東京都の鳥類2研究紀要 第16輯 日本大学豊山中高等学校

表1 調査概要

調査期間	1987年5月10日~7月10日	
調査者	会員45名	
調査内訳	調査はがき	23枚
	調査票	166枚
調査メッシュ	181メッシュ	

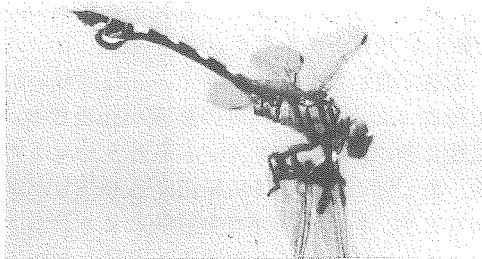


表2 埼玉県の地域区分

地域	地形区分	おもな都市名	備考
県南東	低地	草加、越谷	
県南中	台地、低地	川口、浦和、大宮、上尾	
県南西	台地、低地	所沢、川越	
県央・東	低地	鴻巣、久喜、加須、栗橋	
県北	台地、低地	熊谷、深谷、本庄	
県西南	丘陵	飯能、越生	1986年冬より調査開始
県西北	丘陵	皆野、寄居	
秩父	山地	秩父山地	

表4 キツツキ3種の調査対象メッシュにおける出現率

(単位: %)

地域	調査年	コゲラ			アオゲラ			アカゲラ		
		1985夏	1986夏	1987夏	1985夏	1986夏	1987夏	1985夏	1986夏	1987夏
県南東		0	0	3.0	0	0	0	0	0	0
県南中		5.3	7.2	7.5	0	0	0	0	0	0
県南西		26.7	29.4	40.0	6.7	8.8	26.7	6.7	0	0
県央・東		3.7	12.5	23.5	0	0	0	0	0	0
県北		0	19.2	25.0	0	0	0	0	0	0
県西南		—	23.5	30.0	—	41.7	30.0	—	0	0
県西北		2.9	27.3	57.1	1.5	27.3	28.6	0	18.2	0
全県(除秩父)		5.2	14.2	14.9	0.9	5.2	5.0	0.5	0.9	0

表 3 県内の地域別種別生息状況

地 域 種 名	85 年 夏	86 年 夏	県 県 県 県 県				
			南 東	南 中	南 西	央 東	西 北
カイツブリ	○	○	○	○	○	○	○
コアホウドリ		○					
カワウ	○	○	○				
ヨシゴイ	○	○	○	○			
ミソゴイ		○					
ゴイサギ	○	○	○	○	○	○	○
ササゴイ	○	○		○	○		
アマサギ	○	○	○	○			
ダイサギ	○	○	○	○	○		
チュウサギ	○	○	○	○	○		
コサギ	○	○	○	○	○	○	○
アオサギ	○	○				○	
コブハクチョウ		○					
カルガモ	○	○	○	○	○	○	○
コガモ		○	○		○		
ホシハジロ					○		
キンクロハジロ		○					
トビ	○	○		○	○		
ウズラ	○	○			○		
キジ	○	○		○	○	○	○
ヒクイナ	○	○			○		
バン	○	○	○	○	○		
オオバン					○		
タマシギ		○			○		
コチドリ	○	○	○	○	○	○	○
イカルチドリ	○	○			○	○	
シロチドリ	○	○	○		○		
イソシギ	○	○	○	○	○		
ヤマシギ		○					
オオジシギ	○						
セイタカシギ					○		
ツバメチドリ	○				○		
コアジサシ	○	○		○	○	○	
シラコバト	○	○	○	○			
アオバト	○	○		○			
ジュウイチ			○				
カッコウ	○	○	○	○	○	○	○
ツツドリ	○	○	○				
ホトトギス	○	○	○	○	○	○	○
コノハズク	○						
オオコノハズク		○					

地 域 種 名	85 年 夏	86 年 夏	県 県 県 県 県				
			南 東	南 中	南 西	央 東	西 北
アオバズク	○	○	○	○	○	○	○
フクロウ	○	○					○
ヨタカ	○	○			○		
ヒメアマツバメ	○						
アマツバメ	○	○		○	○	○	○
ヤマセミ	○	○					○
アカショウビン		○					
カワセミ	○	○		○	○	○	○
ブッポウソウ		○					
アリスイ		○					
アオゲラ	○	○		○		○	○
アカゲラ	○	○					
コゲラ	○	○	○	○	○	○	○
ヒバリ	○	○	○	○	○	○	○
コシアカツバメ	○						
イワツバメ	○	○	○	○	○		○
キセキレイ	○	○		○	○	○	○
ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○
セグロセキレイ	○	○	○	○	○	○	○
ビンズイ		○					
サンショウクイ	○	○					
チゴモズ		○					
モズ	○	○	○	○	○	○	○
コルリ	○				○		
ノビタキ	○						
イソヒヨドリ	○						
マミジロ	○	○					
トラツグミ	○	○					
クロツグミ	○	○			○		
アカハラ	○	○			○		
ヤブサメ	○	○					
ウグイス	○	○	○	○	○	○	○
コヨシキリ	○	○			○		
オオヨシキリ	○	○	○	○	○	○	○
メボソムシクイ	○	○			○		
エゾムシクイ		○					
センダイムシクイ	○	○			○		○
キクイタダキ							○
セッカ	○	○	○	○	○	○	○
キビタキ	○	○			○	○	
オオルリ	○	○					

種名	地域		県						
	85年夏	86年夏	南	南	大	西	西	北	北
コサメビタキ	○	○							
サンコウチョウ	○	○		○					
エナガ	○	○		○	○	○	○		
コガラ	○	○		○					
ヒガラ		○							
ヤマガラ	○	○							○
シジウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メジロ	○	○	○	○	○	○	○		○
ホオジロ	○	○		○	○	○	○	○	○
ホオアカ									○
ノジコ		○							
アオジ	○	○							
オオジュリン								○	
マヒワ	○								
コイカル		○							
イカル	○	○		○	○	○		○	○
シメ		○		○	○	○			
コムクドリ	○	○		○			○		
カケス	○	○			○			○	○
ドバト	○	○		○	○	○	○		○
セキセイインコ	○	○							
ワカホセインコ	○	○	○						
ベニスズメ		○							
ギンパラ	○								

(注1) 紙面の都合上、全地域に生息しているコジュケイ、キジバト、ツバメ、ヒヨドリ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシブトガラス、ハシボツガラスの10種は表から削除してある。

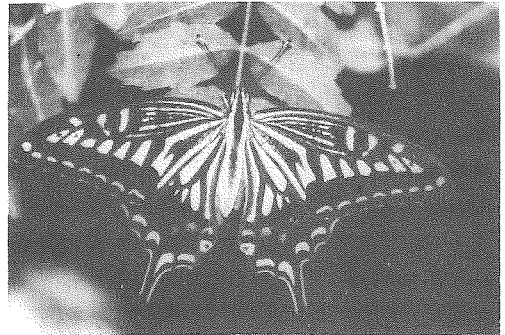
(注2) トビ以外のワシ、タカ類は保護のため削除してある。

(注3) 日本で繁殖しないシギ・チドリ類等は削除してある。

(注4) 本調査は繁殖調査でないため、期間中に国内繁殖種であれば明らかに通過であっても示してある。

(執筆 小荷田行男、

カット 鈴木加代子、写真 登坂久雄)



野鳥情報

ヨシゴイ ◇9月23日、浦和市の白幡沼で1羽(海老原教子)。

ササゴイ ◇9月8日午前6時、川越市新町の小畔川で2羽(塚原恵子)。

アオサギ ◇8月27日、浦和市大谷口の遊水池で1羽(近藤 崇)。

コガモ ◇9月13日、浦和市大谷口の遊水池で5羽(近藤 崇)。◇9月19日、本庄市の阪東大橋下流の利根川で40羽(北川慎一)。◇9月21日、浦和市の白幡沼で2羽(海老原美夫)。◇9月23日午後4時、戸田市道満で数十羽の群れが、次々と狭い水路に舞

い降りてきた(登坂久雄)。

オナガガモ ◇9月15日、本庄市の阪東大橋下流の利根川で5羽(北川慎一)。◇9月23日、浦和市秋ヶ瀬の排水機場付近で3羽(海老原美夫)。◇9月29日、浦和市の白幡沼で4羽(海老原教子)。

ハシビロガモ ◇9月13日、浦和市大谷口の遊水池で1羽(近藤 崇)。

ミサゴ ◇9月15日、川本町明戸の明戸堰上空でシギチのカウント調査中に1羽(登坂久雄、林 滋、渡辺 敦)。

オオタカ ◇9月19日、上尾市藤波の雑木林で1羽(北川慎一)。

ノスリ ◇9月15日、日高町の白銀平展望台上空で1羽(香川裕之他4名)。

サシバ ◇9月15日、川本町明戸で4羽(山

口輝雄)。◇9月15日、日高町の白銀平展望台上空で2羽(香川裕之)。

チョウゲンボウ ◇9月1日、本庄市の阪東大橋上空で1羽(北川慎一)。◇9月9日熊谷市三ヶ尻の秩父セメント工場上空を旋回後、煙突に3羽とまる(山口輝雄)。◇9月13日、浦和市秋ヶ瀬の大久保浄水場付近で♀1羽(近藤 崇)。◇9月23日、浦和市秋ヶ瀬でトビと空中戦(星崎杉彦)。

バン ◇9月8日午前6時、川越市新町の小畔川で親鳥2羽、幼鳥2羽(塚原恵子)。

シロチドリ ◇9月22日午後1時、本庄市の阪東大橋下流で96羽(林 滋)。

ケリ ◇9月23日~27日、浦和市秋ヶ瀬B地区で1羽(登坂久雄)。

タマシギ ◇9月6日午後5時、幸手町中野で成鳥1羽、幼鳥3羽(秋間利夫)。

キョウジョシギ ◇9月5日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(林 滋)。

トウネン ◇9月22日、本庄市の阪東大橋下流で3羽(林 滋)。

ウズラシギ ◇9月6日、幸手町中原で1羽(秋間利夫)。◇9月20日、浦和市秋ヶ瀬B地区で1羽(金井祐二)。◇9月22日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(林 滋)。

エリマキシギ ◇9月6日、浦和市秋ヶ瀬A地区で4羽(渡辺喜八郎)。

アオアシシギ ◇9月22日、本庄市の阪東大橋下流で3羽(林 滋)。

クサシギ ◇8月27日、浦和市大谷口の遊水池で1羽(近藤 崇)。

ソリハシシギ ◇9月6日、幸手町中野で1羽(秋間利夫)。

ヒバリシギ ◇9月13日、浦和市秋ヶ瀬A地区で2羽(近藤 崇)。

オオジシギ ◇9月8日、浦和市大谷口の畑で1羽(近藤 崇)。

アカエリヒレアシシギ ◇9月5日午前7時、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽(林 滋)。

ツバメチドリ ◇9月6日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(林 滋)。

ヤマドリ ◇9月6日、浦和市大谷口の畑で5羽。かごぬけと思われる(近藤 崇)。

アオバズク ◇9月17日、大宮市北袋町で2羽。この場所での終認(浅沼源太郎)。

ツツドリ ◇9月23日、浦和市秋ヶ瀬B地区で3羽。くぬぎの木についている5~6センチの大きな茶色のケムシをいっしょうけんめいに食べていた(登坂久雄)。

アマツバメ ◇9月23日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森上空で20羽(海老原美夫)。

ショウドウツバメ ◇9月5日、本庄市の阪東大橋付近の上空で3千羽以上。夕焼の空を渡る様は、なんとも壮観でした(北川慎一)。◇9月11日、熊谷市の荒川大橋下流で40羽(山口輝雄)。◇9月13日、浦和市秋ヶ瀬の大久保浄水場付近で20羽(近藤 崇)。

ムネアカタヒバリ ◇9月20日、浦和市秋ヶ瀬A地区で3羽(石井 智)。

モズ ◇8月3日、鶴ヶ島町の高倉の林で高鳴き(宮内武昭)。◇9月11日、大宮市日進町で高鳴き(森本國夫)。

ノビタキ ◇9月13日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(北川慎一)。◇9月23日、浦和市秋ヶ瀬の大久保農耕地で1羽(星崎杉彦)。

エゾビタキ ◇9月20日、大宮市天沼町で2羽(浅沼源太郎)。

サメビタキ ◇9月21日、大宮市日進町で1羽(森本國夫)。

サンコウチョウ ◇9月27日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で♀1羽(阿部康司)。

コイカル ◇9月27日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で♀1羽(阿部康司)。

コムクドリ ◇9月18日、上尾市藤波の雑木林で♀1羽(北川慎一)。◇9月20日、浦和市秋ヶ瀬B地区で2羽。千羽位のムクドリの群れに混ざって、刈り取りの終わった田んぼの水たまりで水浴びをしていた(登坂久雄)。

カオグロザビチョウ(繁殖) ◇8月22日、川越市古谷上の川越グリーンパーク中央公園で東南アジア産のかけぬけと思われるこの鳥が繁殖する。成鳥2羽、幼鳥1羽観察する(海老原美夫)。





冬鳥の姿が日一日と目立つようになる11月。水辺にタゲリや衣替えの進むカモ達。渡来直後の小鳥達の群れ。里の空にも鷹が姿を現わします。深まる季節を体で感じる探鳥会へ。

持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、(もしあれば) 双眼鏡などです。

参加費は、一般=100円、会員及び中学生以下=50円。予約申込みは必要ありません。小雨決行です。

夢中になり過ぎて、鳥を驚かししたり、植物を荒らしたりなどしないように。いつもフィールドマナーをお忘れなく。

**バードウォッチング・ウィーク
可愛い鳥たちの写真展**

期日：11月1日(日)～7日(土)

午前10時～午後8時(7日は6時迄)

会場：熊谷駅ビルAZ6階 AZホール

案内：間にあわなくなるといけないので、先にハガキの号外でお知らせしました。この支部報が届くころちょうど開催中。もうすぐ終わっちゃいます。さあいそいでおでかけください。

後援：株式会社アイリスメガネ
日本光学工業株式会社

熊谷市・大麻生探鳥会

期日：11月8日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:04発→大麻生 9:12着 / 秩父鉄道寄居9:01発→大麻生 9:19着

解散：午後1時ごろ

担当：鈴木忠雄

見どころ：初冬の青空を映して流れる荒川の川筋をカワセミのブルーが走ります。色とりどりのカモ類の衣装も増えてきました。水辺が華やきだす季節です。

栃木県・奥日光探鳥会

期日：11月14日(土)

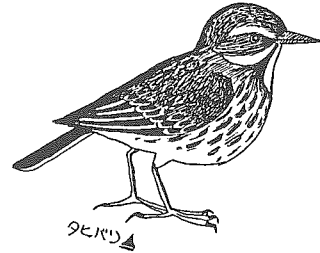
集合：午前6時50分 大宮駅東武線改札口前
または、午前7時35分 春日部駅日光

方面行きホーム最前部

交通：現地までは東武鉄道快速(浅草 7:10 発→春日部 7:43 発→東武日光 9:13 着)、および東武バス利用。東武各駅で日光フリーパスをお求めください。

帰路：東武鉄道快速春日部 19:20 着利用予定
担当：中島康夫、楠見邦博

見どころ：冬の小鳥を探してのんびりハイキング。運が良ければ、太い嘴にきれいな衣装の彼女達が、木の実に一杯群れているでしょう。高原はもう冬です。防寒、足元の準備はしっかりと。



浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：11月15日(日)

集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または
午前9時 浦和市立郷土博物館前
(北浦和駅の場合、その後バス利用)

解散：午後1時ごろ

共催：浦和市立郷土博物館(参加費無料)

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司

見どころ：三室の里も冬の色に染まり始めました。ひんやりした空気に、ツグミやアオジの声が良く合う季節です。

桶川市・川田谷探鳥会

期日：11月22日（日）
集合：午前9時 桶川駅西口
交通：高崎線 大宮8:33発→桶川8:46
着／高崎線熊谷8:24発→桶川8:48
着（桶川駅から現地までバス利用）
解散：午後1時ごろ
担当：北川慎一

見どころ：タゲリ大軍団の乱舞を期待しまし
ょう。毎年数10から100羽位が越冬
しています。大空に鷹の姿も探してみ
ましょう。

浦和市・さぎ山記念公園探鳥会

期日：11月23日（祝）
集合：午前9時30分 さぎ山記念公園駐車場
大宮：大宮駅東口7番バス乗場から中野田行
き8:40発→上野田下車／浦和駅西
口1番バス乗場からさぎ山記念公園行
き8:55発→終点下車
解散：午後1時ごろ
担当：海老原美夫、松井昭吾

見どころ：閑静な初冬の見沼を散策しながら、
在りし日の鷺山に思いを馳せますか。
それとも、ノスリやタゲリの姿に心を
躍らせますか。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：11月28日（土） 午後1時～3時ごろ
会場：浦和市立コミュニティーセンター2階
第1講座室（浦和駅西口から県庁通り
西進、中山道を左折し約600m右側）
案内：気軽にお喋りしているうちに、支部活
動の助けになっているのがいいですね。



野鳥写真クラブ定例会

とき：11月28日（土） 午後3時ごろ～5時
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ
案内：スライドを楽しんで、楽しんでもらっ
て、野鳥写真を考える機会にもなって。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：11月29日（日）
集合：午前9時 東武越生線川角駅前
交通：川越線大宮7:35発→川越7:54着、
東武東上線乗換え急行8:00発（特急
8:20発も可）→坂戸8:15着、越生
線乗換え8:35発→川角8:45着
解散：午後2時ごろ

担当：中島康夫、楠見邦博
見どころ：紅葉の清流にヤマセミの白が映え
ます。小春日和の一日、のんびり河原
の日溜まりで過ごしませんか。カワセ
ミや猛禽類も歓迎してくれるでしょう。

12月6日（日）北川辺町・渡良瀬遊水池探鳥会
12月13日（日）熊谷市・大麻生探鳥会
12月20日（日）浦和市・三室地区探鳥会
支部忘年会
1月3日（日）北区・浮間公園荒川探鳥会
（カット＝鈴木加代子、鈴木高士）

表紙の写真

ズグロミゾゴイ（サギ科）

憧れの沖縄、石垣島。パイナップルかすの
甘いおいが漂う牛の放牧場の木陰で、吹き
出す汗を拭いながら、じっと待つ。のっそり
のっそり餌を探しながら歩いてくる。顔を上
げた瞬間、木漏れ日に光る神秘的な瞳。吸い
込まれそうなほどの魅力に、しばしばう然と

して、その姿に見とれている私でした。
ミゾゴイに似るが、その名の通り頭上黒
くて、短い黒い冠羽がある。沖縄南部の石垣
島、西表島に留鳥として棲息、繁殖している
が、数は少ない。

（写真と文・北川慎一）

行事報告

8月22～23日(土、日) 両神村親子自然観察会(秩父愛鳥会共催) 人 54人 天気 曇後雨

緑豊かな両神村でのキャンプ。秩父愛鳥会の指導で巣箱作り。立派なシジュウカラ用の巣箱が完成した。川遊び、キャンプファイアー 花火と盛りだくさんの行事。黒澤会員の協力による川マスのつかみ取りに、子供たちの歓声が山にこだました。

8月29日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 浅沼源太郎、岩波勇一、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、楠見文子、佐竹利也、登坂久雄、藤野富代、宮内武昭、吉田二三子、吉本富美子、渡辺孝章(13人) 御苦労さまでした。

8月29日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 12人 作品発表した人 5人



今年のツミです(吉本富美子)

9月6日(日) 鳩山町 物見山

人 36人 天気 晴 鳥 アオサギ カルガモ ツミ サシバ ハヤブサ キジバト コゲラ ツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ メジロ ホオジロ イカル スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(20種) こわいくらい大きなオニヤンマ、やぶに巣を張っているジョロウグモ、輝いているムラサキシジミ、豊富な昆虫類や萩の花などを楽しみながら山道を登っ

ていって、見上げた青空にタカの帆翔。ハヤブサにつっかかるサシバ。やがて高度をとって南の空に去る4～5羽のサシバ。その近くを小型戦闘機のように飛んでいるのは2羽のツミ。タカの渡りの第1陣。

9月12日(土) 神奈川県 多摩川河口

人 17人 天気 晴 鳥 カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ スズガモ トビ コチドリ シロチドリ メダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ハマシギ コオバシギ オバシギ キリアイ シベリアオオハシシギ コアオアシシギ アオアシシギ キアシシギ ソリハシシギ オグロシギ オオソリハシシギ チュウシャクシギ ユリカモメ セグロカモメ ウミネコ キジバト ハクセキレイ スズメ ムクドリ ハシブトガラス(37種) 珍鳥で知られている場所なので、なにかを期待しながら探鳥会開始。やはり居ましたシベリアオオハシシギ。参加者の大部分が初めて見る鳥で、大感激。ほかにもコオバシギ、キリアイ、ソリハシシギなど、埼玉では期待できない鳥を存分に楽しめた。

9月13日(日) 熊谷市 大麻生

人 21人 天気 曇 鳥 カイツブリ ゴイサギ ササゴイ ダイサギ チュウサギ コサギ カルガモ トビ オオタカ チョウゲンボウ クサシギ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(27種) 前日までの大雨で荒川が増水していた。おかげでシギ・チドリは少なく残念。カラスが騒ぐ中によく見るとオオタカがいた。カワセミは一番最初に現われ、鳥合わせ後、昼食時には10m先に止まり、ダイビング。今年生まれた若鳥も多く見られた。

9月15日(火、祝) シギ・チドリ類調査

調査参加者 石井 智、海老原美夫、香川裕之、金井祐二、北川慎一、庄田晴善、佐藤晶人、杉本秀樹、

登坂久雄、中島郁夫、中島康夫、萩原正二、羽石幸子、林 滋、福井 亘、福井恒人、森本國夫、山部直喜、横山みどり、渡辺 敦、以上20人。浦和市から大宮市にかけての荒川河川敷（通称秋ヶ瀬地区）、熊谷市大麻生から川本町明戸にかけての荒川河川敷、本庄市の利根川河川敷の阪東大橋下流付近、大宮市の深作沼調整池の4ヶ所で調査が行われた。結果は研究部から『しらこぼと』で発表される。参加者の皆さん、御苦労さまでした。

9月20日（日） 浦和市 三室地区

人 65人 天気 曇 鳥 チュウサギ コサギ カルガモ コガモ コジュケイ クサシギ イソシギ タシギ シラコバト キジバト ツツドリ コゲラ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ エゾビタキ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ コムクドリ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 林では、今年もやっぱりいつもの場所に姿を見せてくれたエゾビタキ。無事で行けよと声をかけたくなる。あの小さな体で南の国までの大旅行。芝川には、大陸から戻って来たばかりのまだ雄も地味なコガモたち。空には三室では珍しいくらいの数のショウドウツバメが群舞していた。

9月23日（水、祝） 寄居町 鐘撞堂山

人 57人 天気 晴 鳥 カイツブリ コサギ トビ オオタカ ノスリ サシバ キジバト ハリオアマツバメ コゲラ ツバメ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) 60人近い参加者のお目当てのサシバが期待どおり30羽以上舞った。かなたの稜線にできる鷹柱。頭上を通過するサシバもいて、羽の模様もバッチリ。おまけにオオタカも木に止まり、その姿を堪能させてくれた。またまたおまけに当日は部分日食。杉本リーダーが作って来てくれた黒いプラスチックの板が参加者に配られ、山頂でサシバを見たり太陽を見たり。ぜいたくな探鳥会だった。

9月26日（土）『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 浅沼源太郎、岩波勇一、海老原教子、海老原美夫、北川慎一、楠見文子、佐藤晶人、諏訪隆久、登坂久雄、藤野富代、宮内武昭、森

本國夫、吉田二三子、吉本富美子、渡辺孝章(15人) 御苦労さまでした。

9月26日（土） 写真クラブ定例会

集まった人 14人 作品発表した人 5人



スズメ（渡辺孝章）

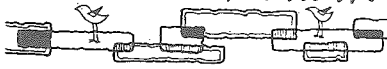
9月27日（日） 本庄市 阪東大橋

人 15人 天気 曇 鳥 カイツブリ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ トビ チョウゲンボウ ウズラ シロチドリ キアシシギ イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 今回は“栗ひろい探鳥会”。秋の1日、阪東大橋でノビタキのつぶらな瞳や、牧草地を舞うショウドウツバメなどを楽しんだ後、リーダーの林さんの厚意で美里町で栗ひろい。袋一杯のおみやげとともに秋を満喫。

9月27日（日） 伊奈町 小室無線山

人 28人 天気 曇 鳥 ダイサギ コサギ サシバ コジュケイ キジ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ コサメビタキ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (20種) 今にも降り出しそうな空。サシバが出そうもない気配を感じながらのスタート。案の定なかなか出なかった。あきらめかけて鳥合わせの場所の近くまで進んだ時、出た！ 梢に止まって、全員見ることができ、東京から参加した人たちにも面目がたつたとリーダーたちもほっとした。小さな大旅行者のコサメビタキ2羽もじっくり見られた。

連絡帳



オオタカの生息地を守りたい

鳩山町物見山ゴルフ場問題

わが支部でも探鳥会を開催している鳩山町の物見山にゴルフ場建設計画が進行していることが明らかになり、オオタカが生息している貴重な自然が保護されるよう、支部から県当局に要望書を提出しました。

9月3日その計画のことを初めて知らされ調査したところ、鳩山スポーツランド(株)が計画している石坂地区ゴルフ場開発計画は、オオタカの生息地を含め、物見山全域が対象となっているものであり、開発受け入れの是非を問う住民投票が6日に実施されることが判明しました。

5日、海老原美夫副支部長が鳩山ニュータウン自治会会長杉山孝浩氏に面会し、「対象地域はオオタカの生息する自然豊かな貴重な地であるから、同意の是非について判断するとき、そのこともぜひ念頭に置いていただきたい」と、申し入れをしました。

しかし、時あまりにも遅く、住民投票の結果は開発賛成派が54.1%をしめ、造成事業申出書は、9月16日、鳩山町から県当局に提出されました。

このあとその計画の立地承認が審議される土地利用行政推進会議にむけて、役員会議で検討した結果、「自然環境の保全のために、ゴルフ場等の造成事業に関する指導要項に基

題字『しらこぼと』=山下静一(財)日本野鳥の会会長、イラスト見出し=鷹尾正済(P.6.12表紙デザインも)・鈴木加代子(p.8)・渡辺周司(p.10)

づく立地承認をせず、貴重な自然を保護されますようお願いする」趣旨の要望書を9月29日付をもって県当局に提出しました。

10月2日の県会において、議員の質問にたいし県企画財政部長は、「地もとの同意率によっては申出書の扱いを再検討する」と回答しました。大切な自然です。今後も支部としてはなりゆきに注目していきます。

ご寄付ありがとう

次の方からご寄付がありました。

笠井 実さん 20,000円

会員数は

10月20日現在 756人です。

活動報告

8月29日 研究部会議

8月29日～30日 関東ブロック会議(森本國夫、山部直喜両幹事が出席。7支部から10人、本部2人、計12人。支部報について、支部運営のノウハウについて)。

9月15日 県内シギ・チドリ類調査。

9月20日 編集部会議。普及部会議。役員会議(司会・榎本秀和、パネル展について、鳩山町ゴルフ場について、その他)。



20年来の運動がやっと実り私のフィールド釧路湿原が国立公園になりました。湿原周辺の開発があらかた終了した上での指定です。水産、酪農、紙パルプの相次ぐ低迷の中、観光にかける地元の期待は大きく観光開発の圧力が強まっています。釧根高速道、風蓮湖畔草地開発、春国岱国道建設とタンチョウの繁殖地、根釧原野の湿原に新たな開発圧力が強まっています。(小荷田行男)

『しらこぼと』1987年11月号(第42号)

定価 100円(会費に含まれます)

発行人 今井昌彦 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部

☎ 0488(32)4062

〒 336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130

印刷 望月印刷株式会社

(本誌掲載記事の無断転載はかたくお断りします)